

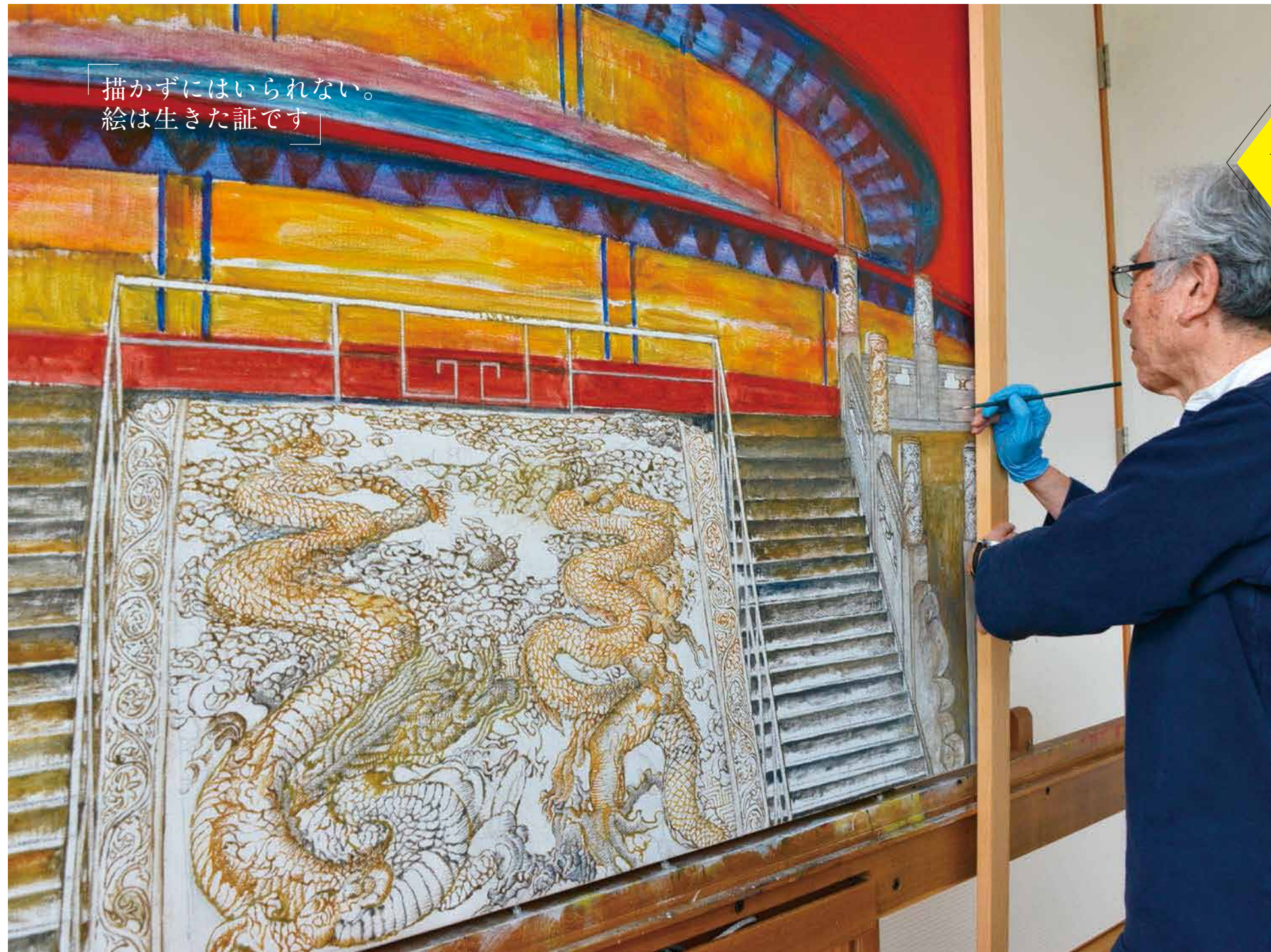
目下、大作「天壇」を制作中。明の永楽帝が祭祀を行った美しい建物を描いている。

おくたに・ひろし 1934年、高知県出身。東京藝術大学美術学部客員教授、愛知県立芸術大学助教授を歴任。日本藝術院会員。文化功労者。1979年第一回「十果会」結成に参加。2017年、文化勲章を授与される。

Information

高島屋美術部創設110年記念
第40回記念 十果会

日本橋店 6階
7月4日(水)→10日(火)
大阪店 6階
7月18日(水)→24日(火)
京都店 6階
8月1日(水)→7日(火)
ジェイアール名古屋タカシマヤ 10階
8月15日(水)→21日(火)
上記各店美術画廊
※最終日は午後4時閉場
出品作家(50音順・敬称略):
相田幸男 今井信吾 大津英敏
奥谷博 木津文哉 絹谷幸二
齋藤研 桜井寛 瀬川富紀男
林敬二 平岡靖弘



描かずにはいられない。
絵は生きた証です

Artist
Clip

no. 016

奥谷博

Hiroshi Okutani

第40回
「十果会」へ
渾身の作を制作中

photo: Yasukuni Iida
text: Shizuko Mizuta

風

景や人物、静物をモチーフに、赤や青の鮮やかな色の対比と、大胆な構図とで唯一無二の世界を描き出す奥谷博氏。作品には生と死の激しさや翳り、ときに無常観が宿り、観る者の魂を揺さぶる。「色彩は生まれ育った土佐、宿毛の風土の色、私の原点です。太陽の光の強さが体に染みついていて」と語る。

この夏、結成から40年を迎え40回目となる『十果会』が開催される。奥谷氏が所属する独立美術協会の有志が集まり、1979年に発足。いまやわが国の洋画壇を牽引する展覧会のひとつとなった。

「個展のためだけに描く、独りよがりになりがちな世界ではなく、同じ志を持つ友と切磋琢磨し、勉強しあっている場が必要だと思っ

て結成したのです」。絹谷幸二氏、桜井寛氏、林敬二氏の3人とともに創立会員のひとりとして、懸ける思いは深く熱い。

「芸術の世界はすぐに結果が出るものではありません。長い時間をかけて、それぞれの作家が時代に追従することなく、信ずる道を追って実っていくことが大切です」。そして『十果会』は、志の高い、魅力あふれる作品を発表する美術家集団として、その責任を担い続けてきた。開催中はメンバーである画家によるギャラリートークが各会場で行われ、作品に込められた思いや、どのように描かれていったのかなどを、直に聞くことができる貴重な展覧会でもある。

氏の出品作は4点。「大作には北京の『天壇』を描きました。これまで水彩で2枚ほど描きましたが、じっくり油絵具で取り組んだのは初めてです。永楽帝が祭祀を行った美しい建物。細部まで神経をゆき渡らせて描いています」

昨年、文化勲章を授与された。84歳となる氏の絵筆は、いよいよ円熟期を迎えているようだ。「血潮が湧き上がるというか、描かずにはいられないのです。絵とは私の生きた証です」